

MIURA BC 支援隊プロジェクト

被災地支援 富士登山 報告書

三浦豪太

日程：8月9日～8月11日

場所：宮城県 → 富士山 富士宮口五合目～山頂

参加：総勢 56名

・ 被災地より

宮城・塩竈浦戸小中学校小学4年以上21名、父兄+教員11名
牡鹿半島より児童3名 計 35名

・ サポートメンバー

三浦雄一郎、豪太、恵美里、木村大八郎、安藤隼人(ミウラ・ドルフィンズ)
實川欣伸、庄司克史〔仙台〕、畑中みゆき〔塩竈〕、清野乙彦
井上雅之、藤木育代（医療チーム） 計 11名

・ 同行メディア

山と溪谷社、産経新聞、読売新聞、ウェザーニュース 計 10名

〔主催〕株式会社 ミウラ・ドルフィンズ <MIURA ベースキャンプ支援隊>

〔共催〕株式会社 山と溪谷社、日本山岳遺産基金

〔協力〕株式会社 ゴールドウイン、株式会社明治、万年雪山荘、株式会社ウェザー
ニュース、株式会社フィールド&マウンテン、シック・ジャパン株式会社、

MIURA ベースキャンプ支援隊プロジェクトについて

MIURA ベースキャンプ支援隊プロジェクトを立ち上げた軸となる想いは、一時の緊急的な対応だけではなく、三浦雄一郎が体得してきた<究極な状態で生き抜く勇気と手段>を一人でも多くの方々と継続して分かち合うことです。

私たち日本人の誇りである富士山に、宮城県塩竈市立浦戸第二小学校・浦戸中学校の生徒たち親子が三浦親子とともに山頂を目指す、この経験が「諦めない一歩、希望の夜明け」に繋がることを心より願い、今回のプロジェクトを遂行いたしました。

塩竈浦戸第二小学校中学校 及び牡鹿半島 の 児童&生徒 参加の経緯

僕(豪太)が6月13日、宮城県、松島湾にある桂島に元ミウラ・ドルフィンズのスキーヤー庄司克史やスキー仲間たちと共に炊き出しを行った。桂島は塩竈出身で元五輪モーグルスキーヤーの畑中みゆきが震災以後、様々な支援活動を継続的に行っていた場所。海苔とカキの産業が中心であったが、去年のチリ沖地震の津波と東北地方大震災の津波で海苔、カキ漁は壊滅状態、島の太平洋側の民家や漁業の機械類は全壊。彼らの交通手段である塩竈マリーナから出る定期フェリーも震災から長い間、運航せず、ライフラインが途絶えた状態が続いた。桂島を含めた松島湾の島々の子供達は野ノ島にある浦戸第二小中学校に通い、彼らの交通手段もフェリーであった。6月13日にはフェリーも元通りの操業となり学校も再開していたが、地盤沈下によって満潮時には通学路が水浸しになる状態だった。しかしそれでも子供達は笑顔で僕らをむかえてくれた。

僕は炊き出しが終わった後、「この島々の子供達を日本一の富士山に連れて行きたい」と思い、そしてご自身も登山家である校長の志小田先生の思いも一致し、今回のプロジェクトとなった。こうして、浦戸小中学校、小学生4年生以上(10歳以上)の小学生・中学生21名、に加えて畑中みゆきが支援活動を行っている牡鹿半島の小学6年生3人合わせて24人、さらに浦戸小中学校の教員・父兄11名が宮城県から参加が決定した。ミウラドルフィンズから彼らのサポートのため11名、メディア、医療、気象サポートを入れ総勢56名の体制で富士山に挑むことになりました。

8月9日(宮城 → 本栖湖へ移動 & 登山オリエンテーション)

浦戸第二小中学校、牡鹿半島の子供及び教員・保護者の方々は塩竈マリーナに早朝6時45分集合、バスにて富士の山麓へ向け出発。塩竈市長もお見送りにきてくれた。途中のインターで昼食と休憩をとり、午後3時30分、宿泊予定の本栖湖に到着。到着後は現地で出迎えたスタッフによる装備品の説明、行動食の支給、富士登山の注意点、スケジュールなどのオリエンテーションを行う。その後夕食、10時に就寝。

8月10日 富士5合目 → 9合目

5時30分起床、6時45分朝食、7時30分。

8時45分に富士山、水ガ塚駐車場で三浦雄一郎隊長をはじめとした医療チームなど他のサポートメンバーと合流。さらに富士山登頂 1000 回登頂記録をもつ實川氏がサ

ポートとして合流。

午前10時10分、富士宮 5 合目より登山を開始。三つの班に分かれる。木村大八郎 & 庄司克史班、安藤隼人 & 畑中みゆき班、實川欣伸 & 清野乙彦班として、三浦雄一郎先生が先頭、次に三浦豪太が全体の指揮をとり、登りながらそれぞれの班の入れ替えをする様式にする。また先頭グループには看護師の藤木さん、ウェザーニュース 気象予報士がアドバイザーとして常に近くにいてくれた。

同行メディアはそれぞれ写真やインタビューに応じて隊とともに登る。

この日の天気はウェザーニュース飯島氏の予報によると雲がわきやすく、雷雨の可能性はあるが、ただこの雲は主に富士山の北側に集まりやすいとのこと。

富士宮口は富士山の南側で、確かに大きな積乱雲が東側の方に高まってきていたが南風に押されて幸運にも雲は富士宮口方面に達せず、天候に恵まれる。

12時30分に元祖7合目に到着、昼食をとった後、9合目を目指す。

天気は最後まで崩れず、おおむね晴れ渡っていた。

児童・生徒は全員、宿泊予定の9合目「万年雪山荘」に到着したが、途中父兄の一人が具合が悪くなり、スタッフが付き添い5合目まで下山する。

9合目は標高3460m、普段海拔0m にいる塩竈出身の子供達にとってかなりの標高となるため、登山のペース配分はしたが、到着後、数名の子ども達が軽い高山病の症状が出て、医療チーム指示で点滴など適切な処置がされる。その後も頭痛、吐き気等、高所特有の症状が現れたがその都度パルスオキシメーターを確認しながら呼吸法で対応。

全員で明日の登頂を祈願し8時に就寝。

8月11日 9合目 → 山頂 → 下山 → 宮城へ

午前1時30分起床

午前 2 時50分頂上に向けて出発

気温7度、風速10m/s

暗いなか起床、出発の準備。

すぐに装備を身につけ、朝食を摂る。全員同じような装備と靴を持っていて名前の記入もれなどにより若干の混乱があったが、確認後、2時50分に9合目を出発。午前4時55分の日の出(ご来光)を目指して山頂へ向かう。實川氏のアドバイスにより、途中の混雑を避けるために登山ルートではなく、ブルドーザーが物資等を運ぶ為の「ブル道」を使って登り、火口についたら最高地点の剣が峰まで上ることにする。

ウェザーニュースの予報では風速10m 前後の風とのこと、確かに出発直後は西風が強く、西斜面となるブル道が曝されないか懸念されたが、じきに弱まり、寒さも少しずつおさまって、登り始めて2時間を過ぎると東の空が明るくなってきた。

見上げるとまもなく頂上。全員でエールをかけながら登り続ける。

そして午前4時50分ついに富士山頂到着！！！！

そこからさらに最高地点となる剣が峰へ息をつく間もなく登る。

ご来光は剣が峰の中腹地点で遥かな地平線より美しくみることができた。

子供たちはここまでつらい思いをし、励まし合い、吐いたり、頭痛を我慢しながら登ってきた。大きな達成感を感じた素晴らしいご来光となった。

前日に体調を崩された父兄1名をのぞく、チーム総勢55名が全員登頂！

体力のなかった小さな子供もがんばりました。全員で浅間大社へ御参りをし、記念撮影。そして山頂で元Jリーガーの清野乙彦さんがアートフットボールを披露。みんな大喜び。午前6時30分、下山開始。11時5合目到着。そして温泉で疲れを癒し、一路、塩竈へとバスにて帰路につく。

感想

今回の富士山で最も印象的だったのは、ご来光を見たときの子供たちの笑顔です。オレンジ色に照らされ、それまでつらくて泣いていた顔が穏やかになり、涙が感動に変わった瞬間です。

富士山は年間約40万人もの人々が訪れますが、その3割は登頂できません。そんな過酷な山に、大震災を経験した子供達に挑ませていいのだろうかとは最初は考えてしまいました。富士山に登る過程で高山病、寒さ、不安等いろいろな思いも交差するでしょう。多くの支援活動は物資であったり心のケアなどですが、僕たちは敢えて過酷な環境を提供する支援を選びました。東北大震災という巨大な自然災害から立ち上がるために自分から踏み出す勇気が必要だと考えたからです。

今回参加した25名の子供達、みな一度は登山中にどこかで諦めようかと思ったでしょう。しかし、山頂に立ったとき、踏み出した一歩が日本一の高みへと繋がり、そして明けない朝はないということを感じ取ったのではないのでしょうか。

これからも僕らに出来る支援をミウラドルフィンズとして続けていきたいと願っています。

三浦豪太